

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

高卒生は「金の卵」

製造業で2017年3月に卒業予定の高校生を採用する動きが活発になっていると日経がトップ記事で伝えています。あらゆる業種において慢性的な人手不足は深刻な問題です。求人市場ではかつての「就職氷河期」は死語となり、超売り手市場の世の中になっています。

我が国の人口構成を考えれば、今後も団塊の世代が本格的に定年退職期を迎え、一方では子供の数が減り続けています。労働力人口が需要を満たせない時代が継続する可能性が高いです。

仕事が無い時代ほど社会の活力を削ぎ、人の心を疲弊させるものではありません。東日本大震災とアベノミクスが重なり、意欲さえあれば職業を得られる経済環境とめぐり合えた幸運を若い高校生たちは無駄にしないで欲しい。職業人としては大卒より4年も早く社会にもまれるのだ。その4年という経験差は永遠に埋まらない力量であるよう精進してほしいと思うのです。

当社でも毎年高校新卒生が多数入社してきます。大学進学率が50%を超える世の中であって、ひと足はやく社会に飛び込む若者を見ているだけでうれしくなります。職場にとけ込むのには個人差があります。頼もしくもあり、頼りなくもある。完成品を求める必要はありません。

学校教育だけではない、そこに企業が加わることで人として一人前の人間に作り上げる社会であればよい。その一助になることができれば、望外の喜びです。

私は、企業の存在価値の第一は、その企業で働く人の幸せの追求であると強く思うからです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「働き方改革」と職業(生き方)教育

小荷物配送の代名詞「宅急便」でおなじみの商品物流最大手ヤマト運輸が荷受けの総量規制に乗り出すと報じられています。今、物流業界で起きていることは仕事量が増えているのに損益が反転悪化する「豊作貧乏」状況であり、仕事量確保を優先するあまり、利益とそこで働く社員の労働環境を犠牲にしてきた業界体質がいよいよ限界に近づいたといえます。有名上場企業ですら現在の労働力不足の中ではその担い手確保すらままなりません。

「街に仕事を持たない若者があふれる国に比べれば、「人手不足」を嘆く経営者であふれる国の方がなんと幸せなことか。」と安易な結論を語れない事態に直面しているのが今の日本社会ではないでしょうか。

私の会社でも、「仕事依頼はたくさんあるのに、警備隊員の確保がままならない」状況に頭を悩ます日々です。今や経営者は顧客満足度を高めるだけではダメなのです。これからは従業員満足度を高められない企業は人材確保ができず、ビジネスチャンスに対応出来ないがゆえ、衰退していくのです。現在、政府が進める「働き方改革」とは実は義務教育レベルからの仕事に対する意識と人生の目的との関連づけとなる「職業(生き方)教育」の必要性にたどり着くのではないかと思います。



決して残業削減や待遇改善といった目先の「働きやすさ問題」に帰結させてはいけない改革なのです。その意味で学校教育の現場や、そこを巣立った先の職場教育の現場でも、職業を通じて人生を充実させることの意義について「気づき」を与えることが大切でしょう。若手社員には「仕事の充実があればこそ、有意義な人生が見えてくるのだよ」と繰り返し語りかけるのも私の仕事のひとつだと思います。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。
本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

学校教育と民間企業の底力

2015年のノーベル物理学賞に東京大学宇宙線研究所所長の梶田隆章氏が選ばれた時のことです。日本人受賞者が増えることは真に喜ばしい限りですが、最近の日本人ノーベル物理学賞受賞者については一個人にその研究成果と功績を凝縮させることには少々疑問を感じてしまうのです。

梶田氏は素粒子ニュートリノに質量があることを発見したことを評価されての栄誉となったわけですが、そこに至るには建設費約100億円をかけ1996年に完成した岐阜県飛騨市神岡町の地下1000メートルの鉱山跡に建設されたニュートリノ観測施設「スーパーカミオカンデ」があればこそとも言われています。

研究者の学識もさることながら、この実験施設建設にたずさわった現場関係者の仕事ぶりや、それを可能にした民間企業の土木建設技術、さらには世界で最高レベルの実験機器・器具を揃えることのできる国家でなければこうした成果は得られなかったはずです。

ノーベル賞受賞者を数多く輩出する国は、優れた民間企業を数多く抱える国でもあります。優れた企業は、質の高い教育が提供され、学習と経験の繰り返しの中で思考力・判断力・表現力を身に付けた人材が豊富に供給される国にこそ立ち上がるものです。

私たちはそのような社会環境を備えた国に生まれ育ってきたことを感謝しなくてはなりません。毎年10月に日本人ノーベル賞受賞者が誕生する背景には、優れた教育水準と民間企業の底力が少なからずあることに気づく必要があるでしょう。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

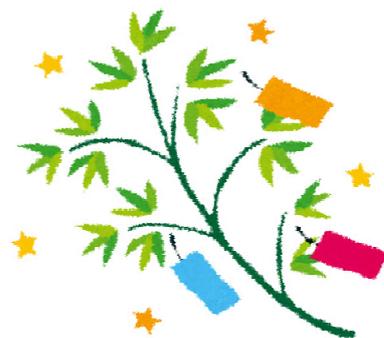
彼女がこどもに残したもの

ブログ「KOKORO.」は先月22日に34歳の若さで亡くなったフリーアナウンサー小林麻央さんの遺作となっていました。乳がんを患ってから綴りはじめたブログには日々の闘病生活の息苦しさだけではなく、健康であることが当たり前である私たちが見落としてしまうような日常の小さな感動と、人が病を抱えてはじめて気づく「いのちの尊さ」を私たちに静かに伝えてくれました。

SNSが発達し、無名のひとりであっても、同じ悩みや苦しみをもつ無数の友に自分の思いを打ち明けることができる時代になりました。病と向き合い、ひとり病室で人生の到達点を眺める日々から、体は動かずとも、不安と闘い、悩み、思いをめぐらし、たどりついた思考なり決意を打ち明けることで同じ苦しみを抱える人や共感する人たちがいつしか顔知れぬ友になれることを彼女が証明してくれたのです。ブログは彼女にとって生きてきた証のひとつに過ぎないかもしれませんが、彼女が「今を書きとめた」ことが、いつでもそれを振り返ることができる人にとっては、たとえ彼女の姿が目の前から消え去ってしまっても、それぞれの「KOKORO.」にひょっこりと顔を出すときがあることでしょう。

彼女が残したブログは闘病記とは異なる筆致です。

こどもさんはまだ母親に甘えたい5歳の女の子と4歳の男の子です。母が生きた証となった文章には、残されたこどもたちがこの先、対峙することになるであろう人生の苦悩を跳ね返すエネルギーに満ちています。彼女がブログに託した思いが伝わってくるようです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

会社の大小にこだわらない

「大企業に就職したい」と誰しも一度は考えることでしょう。その時、「大企業とは」という自分なりの定義づけをすることなく、ただ「家族でも知っている知名度があればよい」「日頃テレビCMや、その企業の人気商品を知っているから」といったイメージ優先の会社選びにつながってはいないでしょうか。バブル景気とその崩壊を経験し、「失われた20年」と語られる長期間の雇用調整期に身を置いてきた職業人ならば、大学入試のように、自分の努力だけで居場所を確保できるような生易しい競争原理の勝利者たり得ても、社会人としての身分の保証など何処にもなかったことが身にしみて理解できているはずです。

学生気分を残したまま、「名の通った会社に就職する」ことが最終ゴールのような思考や発想のままでは前途は厳しいものになることでしょう。

「大企業＝安定した生活」という単純な図式は一面では正しいかもしれませんが、将来にわたっての保証はどこにもありません。過酷な労働環境に耐えられず将来ある若者が自ら命を絶つ出来事が大きく報じられる社会です。「ストレスの対価として、ふさわしい報酬なのか」といったところを顧みず、企業の知名度や、ブランド力にこだわるのがいかに空しいことか気づくでしょう。

来春卒業予定の生徒さん達はこの夏休みにじっくりと就職先の情報収集に取り組む方が多いはずです。大手企業の系列にも属さない企業、非上場企業、地方の地場企業、少数精鋭の中小企業であっても社会に必要とされ、地域経済に貢献している優秀な企業はたくさん存在するのです。私達の会社もその一角でありたいと全社員で汗を流す日々です。大切な生徒様の就職先の相談を受けたときは、ぜひ「企業のサイズ」以外の面にも着目してみてください。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。


松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

入社試験がはじまります

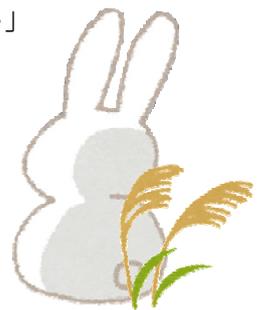
いよいよ来春入社予定の新卒高校生の入社試験が迫っています。先生方には大切な教え子たちの進路選択に立ち会う最も神経をすり減らすこの期間に、当社の採用担当者が進路室に何度も御邪魔する(した)失礼をこの場であらためてお詫び申し上げます。

民間企業が新入社員を採用することは決して当たり前のことではありません。企業にしてみれば受け入れ準備にあたり、事務用品からパソコン、貸与する携帯電話、デスク、チェア一式、車両等を用意するとなれば一人につき30万~50万以上の経費支出に及ぶことは珍しくありません。

そういったコスト意識を新入社員に理解させるのも導入研修では大切なことです。企業人として会社の収益に貢献する以前に、会社は社員ひとりひとりの成長のために投資をしていることを理解してもらうのです。

学校生活の延長の感覚で、一定の時間さえ会社に居れば自動的に賃金が貰えるといった甘えの認識と現実の仕事との差異こそ、新入社員達が最初に超えなければいけない試練でしょう。

あまり最初から厳しい現実ばかり話すと「自分はブラック企業に就職してしまったのか」なんて笑えない相談を受ける羽目になりかねない難しい時代です。新社会人には、「いつまでも社会の荒波から逃避してばかりはいられない。上司、同僚のサポートは大切だが、ストレスを背負い、消化する強さを身につけて欲しい。仕事を通じて体得するたくまさが人を成長させる。」と伝えたいのです。学校教育と企業による社員教育は社会システムの中では連続性があるのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

品質偽装と日本社会

私たちの社会は生産活動と消費で生まれる富みと税によって成り立っています。生産物の価値を正しく評価・認識するためには偽りのない品質性能が開示されていることが大前提であり、消費者はその情報をもとに価値に対する対価を支払い、その過程で生産者と消費者が税を納めるサイクルにより社会が維持されているのです。そのような信頼関係を毀損させる行為は社会全体に対する重大な裏切りとなります。

大手鉄鋼メーカーであり、名門企業と言われても誰もケチをつけないであろう神戸製鋼所が製品の強度を改ざんしたり、検査しているはずの製品を未検査のまま出荷していた、などの不正行為を行っていたと報じられ大きなニュースになっています。

食品の賞味期限をごまかしたり、外国産を国産と偽装したり、或いは排ガスや燃費の虚偽データを申告・提示していたりと、とても外国製品の悪口など言えたものではない日本人の墮落ぶりが目に余ります。

一握りの社員の怠慢が会社に大穴をあけるところか、これまで築き上げてきた「日本製品ブランド」を地に落としてしまいました。私たちにはこのような事態を防ぐことが出来ないのでしょうか。

このような時、昨今の日本人のモラルの低下を嘆く意見がよく出されます。私には現代人の倫理観の衰退というより「仕事に対する情熱」の欠如に見えて仕方がありません。

まず経営者が襟を正し「仕事への情熱」を社員に示すことが必要である、と考えています。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

出来る人に仕事は流れる

会社組織の中では、仕事が自然とある人に集中することがよくあります。仕事とは出来ない人から遠ざかり、出来る人へ流れていくのです。

時間がかかる仕事でも常に経過を報告してくれる社員。仕事を快く引き受け、取り掛かりの早い社員。仕事とはトライ＆エラーで仕上げていくものと理解している社員。こうした身のこなしが備わっている人は決して期待を裏切りません。

では仕事が寄ってこない人はどのようなタイプでしょうか。前述した仕事に対する向き合い方が真逆の社員です。依頼された仕事の経過を報告しない。新しい仕事を振られる度に出来ない(やらない)理由を並べる。自分の提出物の不備を素直に認めようとしない。

このような社員は、任された仕事をやり遂げる意思も能力も放棄しているのです。自分の守備範囲しか仕事をしない。仕事をしないのではなく能力が無いと判断されていることが分からないのです。



あなたは上司から仕事を任されることはありますか。資料づくりでも、交渉窓口でもなんでも良いのです。自分に指示がないことで余計な仕事を背負わなくて済んでいる、と思ってホッとすることはありませんか。信頼されないことを喜ぶなんて、つまらない人生の好例です。仕事があなたに寄って来る、そんな人であって欲しいと若い社員には話しています。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。


松本 隆一郎